



2016年12月期 中間決算説明会資料

2016年8月3日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6464)



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

本プレゼンテーション資料で使用された財務情報は、別途明記する場合を除き、国際会計基準審議会により策定された国際財務報告基準(IFRS)に基づき作成されております。



目次

1. ツバキ・ナカシマのご紹介 P3
2. 2016年12月期第2四半期実績 P8
3. 2016年12月期業績予想の修正及び配当方針 P23

「一球一心」

一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。



「一精一誠」

誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。

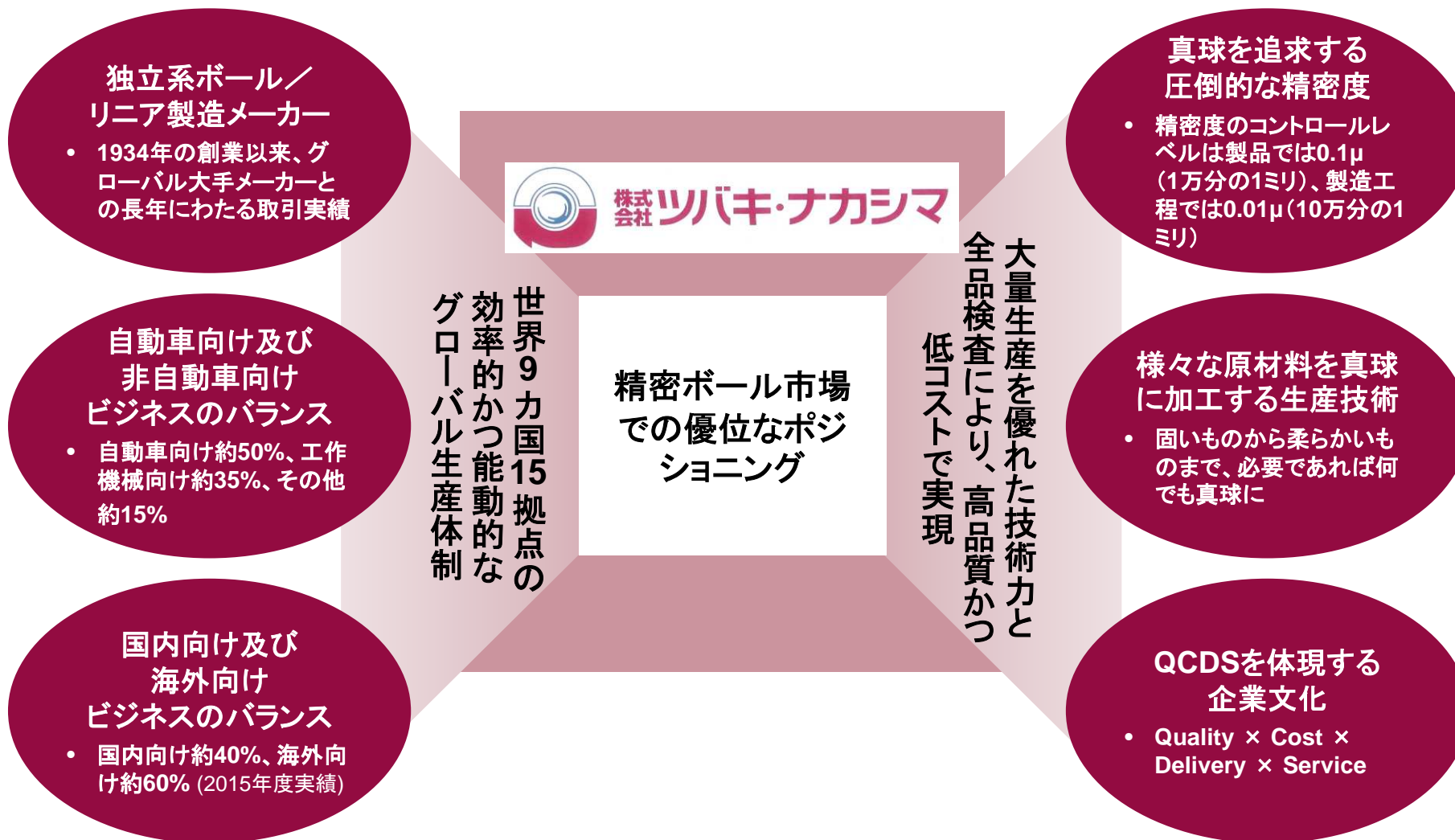




1. ツバキ・ナカシマのご紹介



ツバキ・ナカシマの特徴





ボールビジネスの最終用途

精密ボールの最終用途は自動車／産業・工業用品／医療／インフラ／消費財など多岐にわたります

精密
ボール



クロム球



セラミック球



ガラス球



プラスチック球



タングステン球



自動車/EV



建設機械



風力発電



新幹線



スピンドル



人工衛星



工作機械/
産業用ロボット



エアコン



ドローン



光通信コネクタ



シャンプー



医療機器



ボールペン

最終
用途

(※)主な最終用途を掲載しており、このほかにも数多くの用途がございます。



リニアビジネスの最終用途

ニッチトップの競争力のある製品に特化して、事業展開をしています

リニア
ビジネス
製品

最終
用途

ボールねじ・ボールウェイ



ボールねじ



ボールウェイ



建設機械



工作機械



産業用ロボット

送風機



送風機



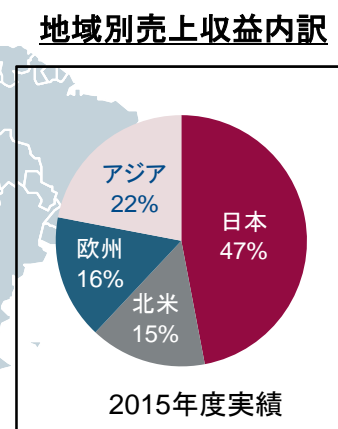
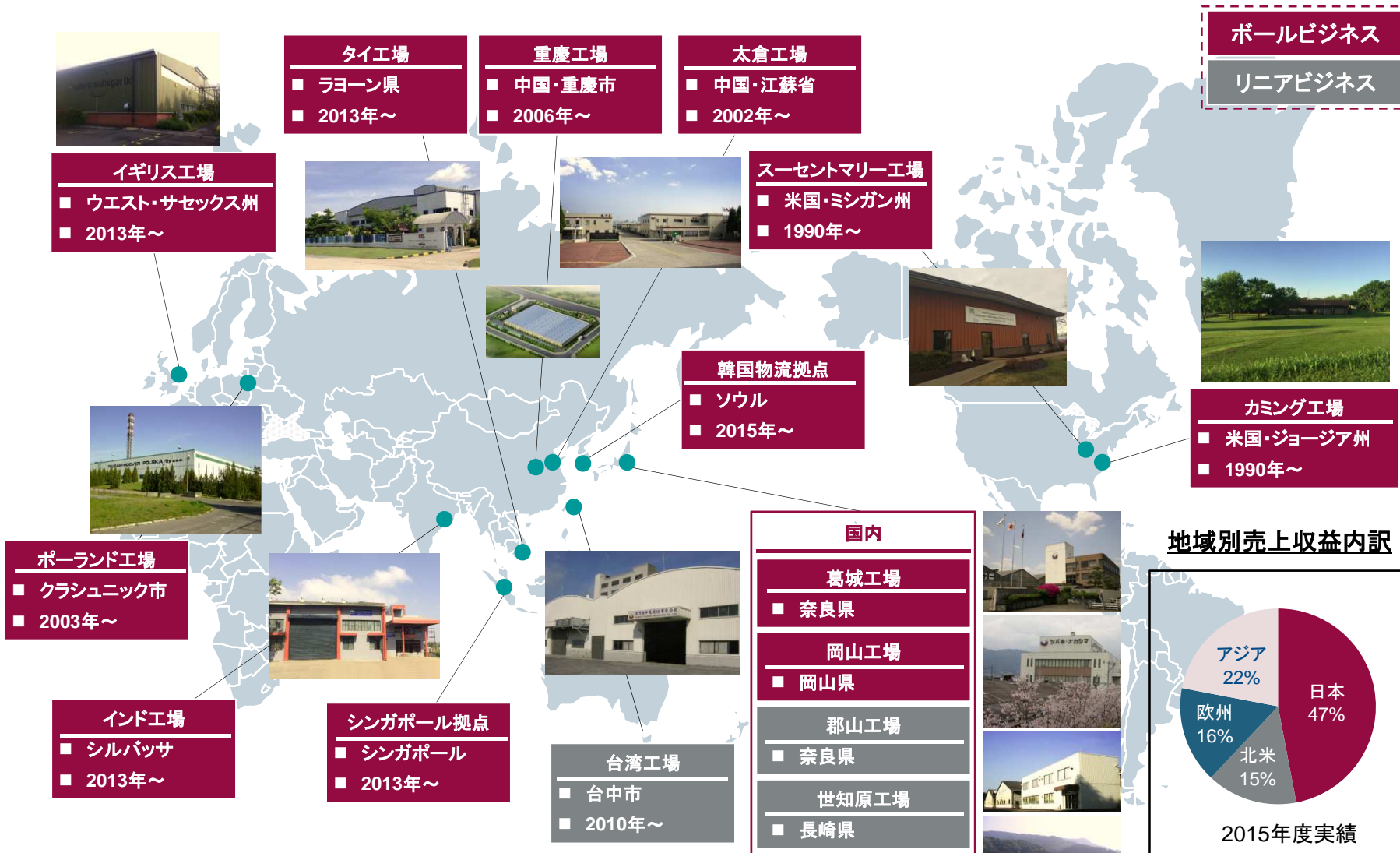
工場／発電所等の冷却設備

(※)主な最終用途を掲載しており、このほかにも数多くの用途がございます。



グローバル地産地消モデル

世界9カ国15拠点を有し、グローバルに事業を展開しております





2. 2016年12月期第2四半期実績



2016年12月期上期サマリー

マクロ環境や円高の逆風はあったものの、個社の取組みによってマイナス影響を軽減することに成功

外的要因



株式会社 ツバキ・ナカシマ

内的要因

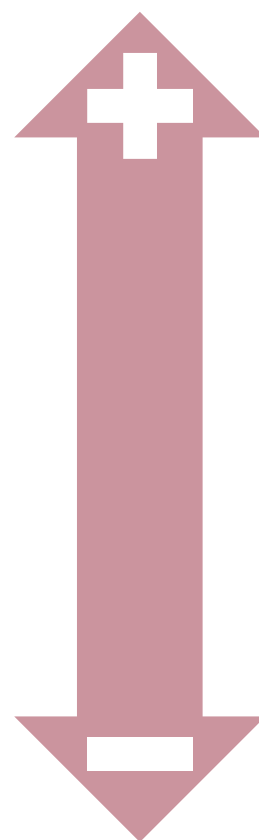
自動車関連は概ね年初の想定通りに進捗

工作機械関連は年初の予想に反して回復遅れ

年初からの円高トレンドによる連結業績へのマイナス影響

4つの戦略的取組を含め、ボールビジネスは順調な進捗

コスト改善やバランスシートマネジメントの強化にも注力



2016年12月期上期決算ハイライト



売上面

- 自動車向けはグローバルで概ね年初の想定通り進捗
- 工作機械関連は年初の予想に反して回復遅れ
- ボールビジネスにおける拡販戦略の進捗
- 第2四半期は第1四半期に対し6.1%増の94.9億円を達成

コスト面

- 売上収益増に加え、コスト改善の結果、第2四半期(4-6月)の営業利益率は第1四半期比2.1%増の20.3%を達成

キャッシュ面

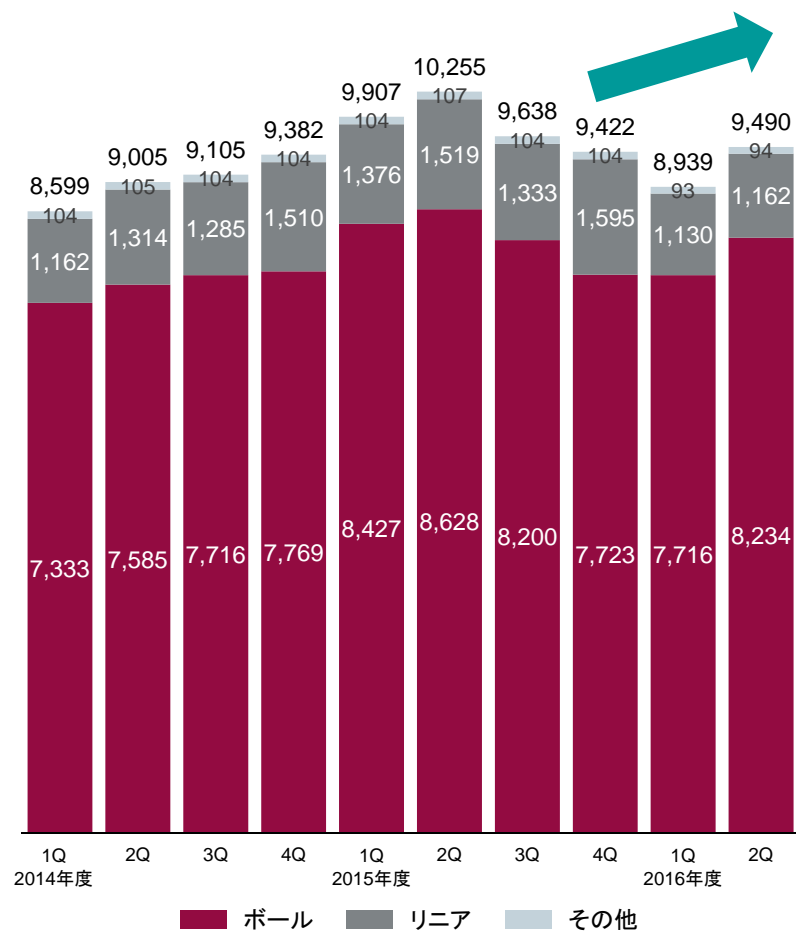
- バランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフローを確実に創出
- 中間配当: 1株当たり30円



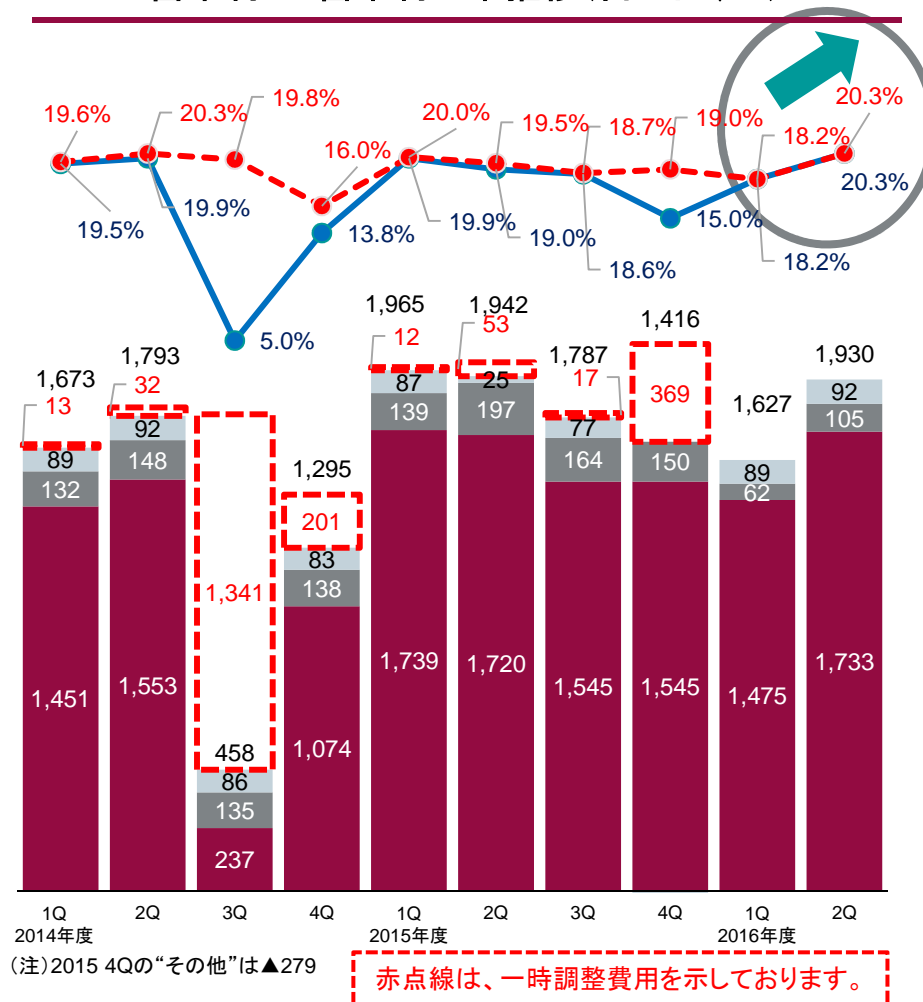
四半期グループ連結業績推移

2016年度第1四半期は営業利益率18.2%であったものの、第2四半期は20.3%と昨年来最高水準のマージンを達成

売上収益推移 (百万円)



営業利益・営業利益率推移 (百万円、%)



2016年12月期上期グループ連結業績 前年同期との比較



営業利益率並びにEBITDAマージンは2015年度上期並みを維持

(百万円)

	2015年度上期	2016年度上期			
	実績	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	20,140	18,429	▲1,134	▲577	▲2.9%
営業利益	3,907	3,557	▲139	▲211	▲5.4%
営業利益率	19.4%	19.3%	—	—	—
EBITDA	4,802	4,372	▲211	▲219	▲4.6%
EBITDAマージン	23.8%	23.7%	—	—	—
税引前利益	3,750	2,659	▲871	▲220	▲5.9%
当期(四半期)利益(※1)	2,875	2,014	▲668	▲193	▲6.7%

(※1)“当期(四半期)利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております。

2016年12月期上期グループ連結業績 年初業績予想との比較



営業利益率並びにEBITDAマージンは年初業績予想を上回り順調に推移

(百万円)

	2016年度上期	2016年度上期			
	年初業績予想	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	19,300	18,429	▲156	▲715	▲3.7%
営業利益	3,700	3,557	▲44	▲99	▲2.7%
営業利益率	19.2%	19.3%	—	—	—
EBITDA	4,550	4,372	▲42	▲136	▲3.0%
EBITDAマージン	23.6%	23.7%	—	—	—
税引前利益	3,300	2,659	▲542	▲99	▲3.0%
当期(四半期)利益(※1)	2,350	2,014	▲264	▲72	▲3.1%

(※1)“当期(四半期)利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております。



2016年12月期上期セグメント別売上収益

ボールビジネスは底打ちからプラス傾向へ。リニアビジネスのネガティブなマクロ影響は当面継続

対前年同期比較

(百万円)

	2015年度上期	2016年度上期			
	実績	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
グループ連結	20,140	18,429	▲1,134	▲577	▲2.9%
ボールビジネス	17,056	15,950	▲1,134	+28	+0.2%
リニアビジネス	2,895	2,292	—	▲603	▲20.8%
その他	189	187	—	▲2	▲1.0%

対年初業績予想比較

(百万円)

	2016年度上期	2016年度上期			
	年初業績予想	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
グループ連結	19,300	18,429	▲156	▲715	▲3.7%
ボールビジネス	16,400	15,950	▲156	▲294	▲1.8%
リニアビジネス	2,710	2,292	—	▲418	▲15.4%
その他	190	187	—	▲3	▲1.6%

2016年12月期上期地域別売上収益(ボールビジネスのみ)



欧州顧客への拡販は進捗、日本では国内自動車の販売減にも拘わらず年初業績予想と同水準、中国では第1四半期に底打ちし、第2四半期に回復

対前年同期比較(ボールのみ)

(百万円)

	2015年度上期	2016年度上期			
	実績	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
日本	6,449	6,124	—	▲325	▲5.0%
北米	3,083	2,865	▲206	▲12	▲0.4%
欧州	3,165	3,113	▲414	+362	+11.4%
アジア	4,359	3,848	▲514	+3	+0.1%

対年初業績予想比較(ボールのみ)

(百万円)

	2016年度上期	2016年度上期			
	年初業績予想	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
日本	6,150	6,125	—	▲25	▲0.4%
北米	3,050	2,865	▲53	▲133	▲4.3%
欧州	3,150	3,113	▲42	+5	+0.2%
アジア	4,050	3,848	▲61	▲141	▲3.5%



(ご参考) 2016年12月期上期地域別売上収益

グループ連結開示セグメントでの地域別売上収益は以下の通り

対前年同期比較

(百万円)

	2015年度上期	2016年度上期			
	実績	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
日本	9,353	8,525	—	▲827	▲8.8%
北米	3,083	2,865	▲206	▲12	▲0.4%
欧州	3,165	3,113	▲414	+362	+11.4%
アジア	4,539	3,926	▲514	▲99	▲2.2%

対年初業績予想比較

(百万円)

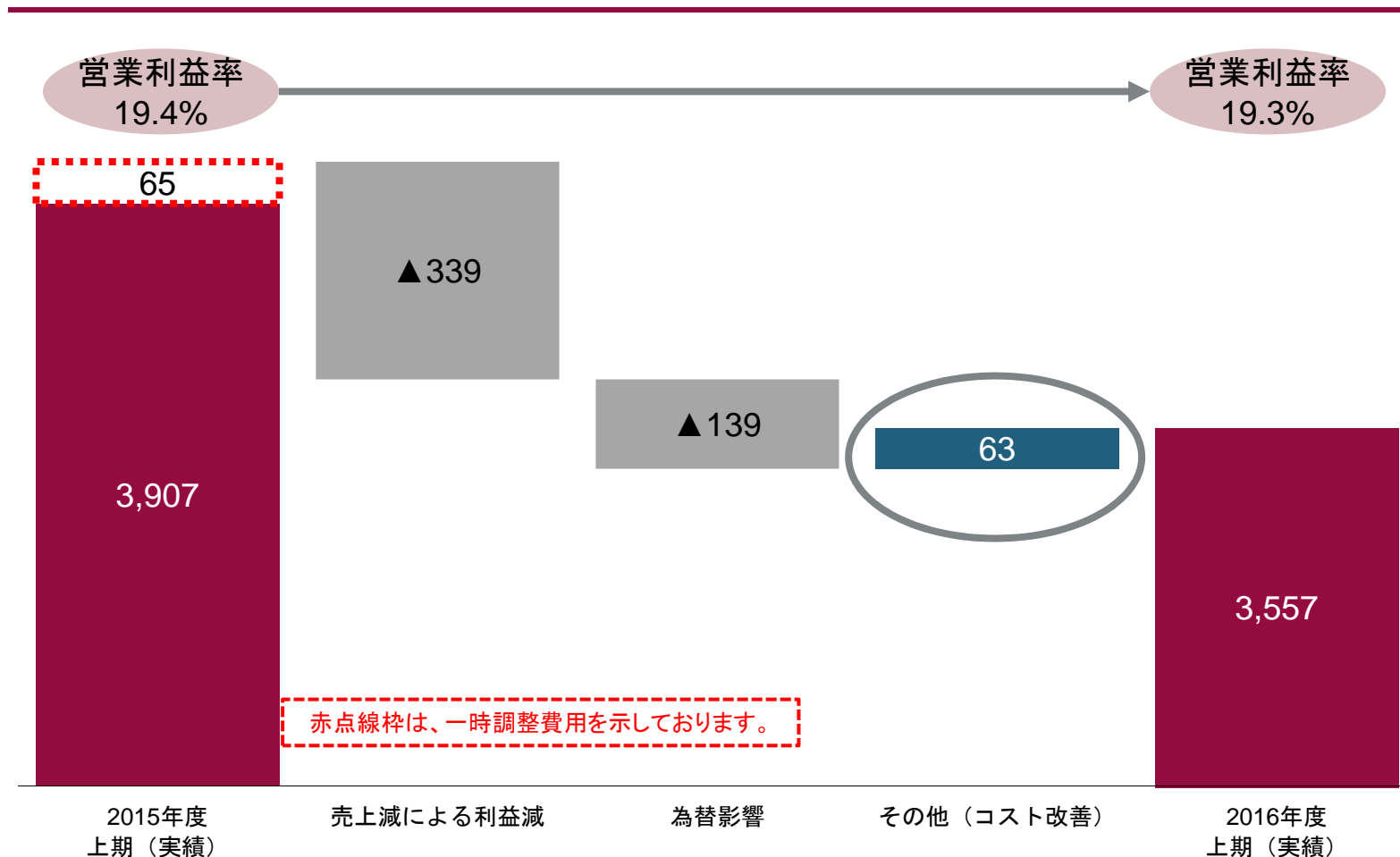
	2016年度上期	2016年度上期			
	年初業績予想	実績	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
日本	8,900	8,525	—	▲375	▲4.2%
北米	3,050	2,865	▲53	▲133	▲4.3%
欧州	3,150	3,113	▲42	+5	+0.2%
アジア	4,200	3,926	▲61	▲213	▲5.1%



2016年12月期上期営業利益増減要因分析

売上減及び為替影響による利益減に対してコスト改善の結果、営業利益率は前年同期と比較して同水準を達成

営業利益(対前年同期比較)



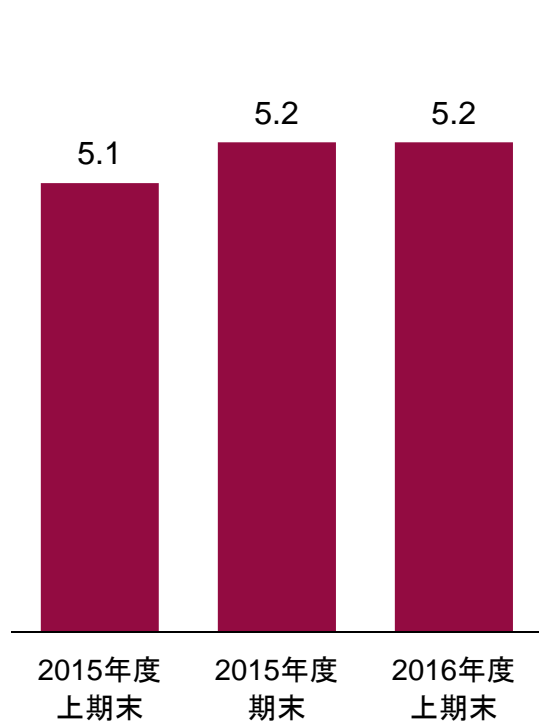


BS／CFにおける業績

BS／CFは継続的に改善し、確実にキャッシュフローを創出

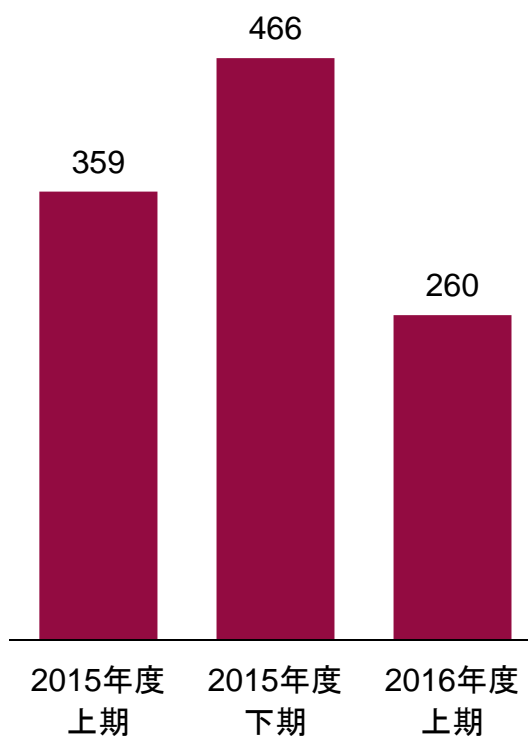
棚卸資産回転月数(月)

■ 在庫コントロールが奏功し、昨年実績並みで推移



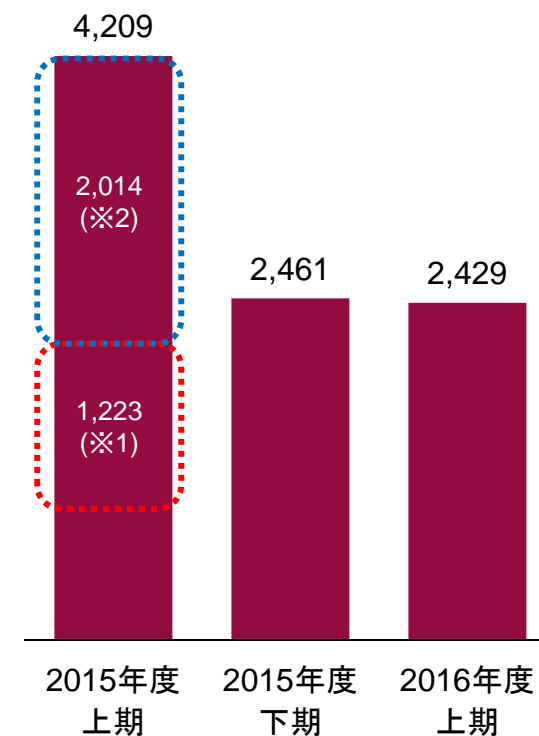
設備投資額(百万円)

■ 設備投資は引き続き適正にコントロール(年間10億円程度)



FCF(百万円)

■ 確実にキャッシュフローを創出



(※1)売掛債権流動化開始初期効果
(※2)在庫適正化開始初期効果
(回転月数0.6ヶ月改善×売上月平均)

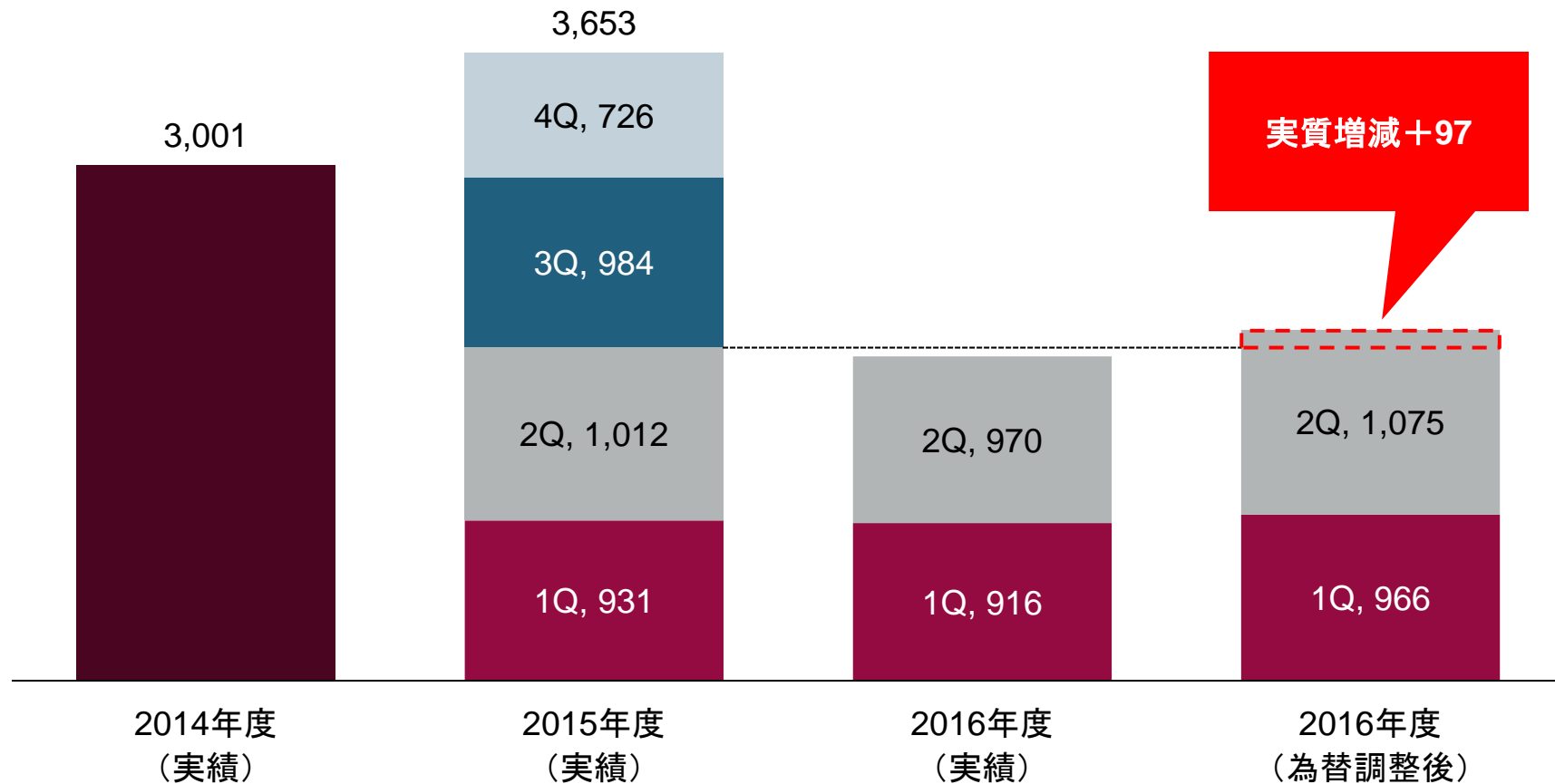
戦略的な取り組みの進捗

①海外のお客様への売上拡大



為替影響やマクロ影響を受けるも順調に案件を増やしており、実質的に増加傾向

(百万円)



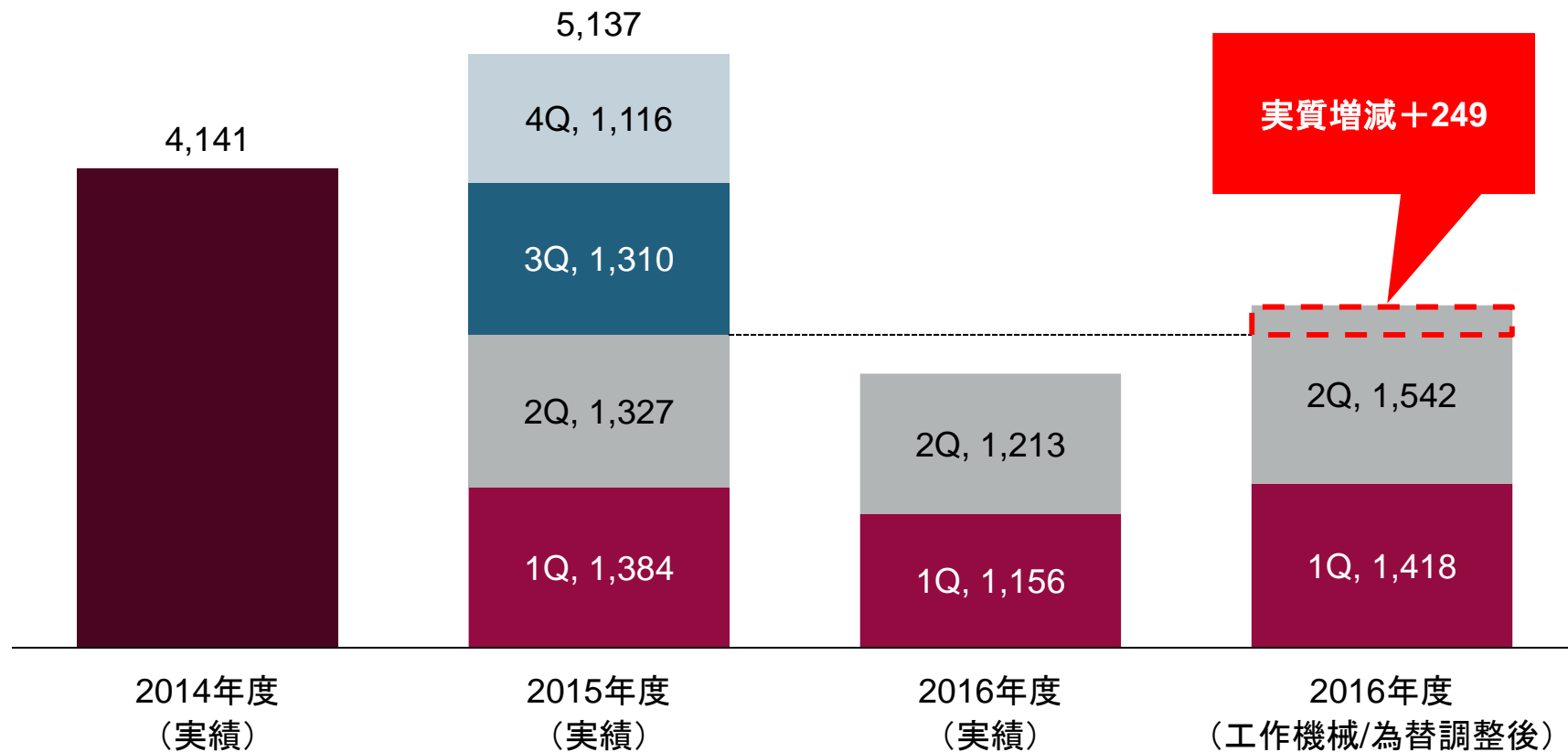
戦略的な取り組みの進捗

②セラミックボールの拡販



為替影響や工作機械向けの需要減少を考慮すれば、セラミックボール主要仕向け先は実質増加傾向

(百万円)



(※1)工作機械需要による影響額は当社推計値となります。

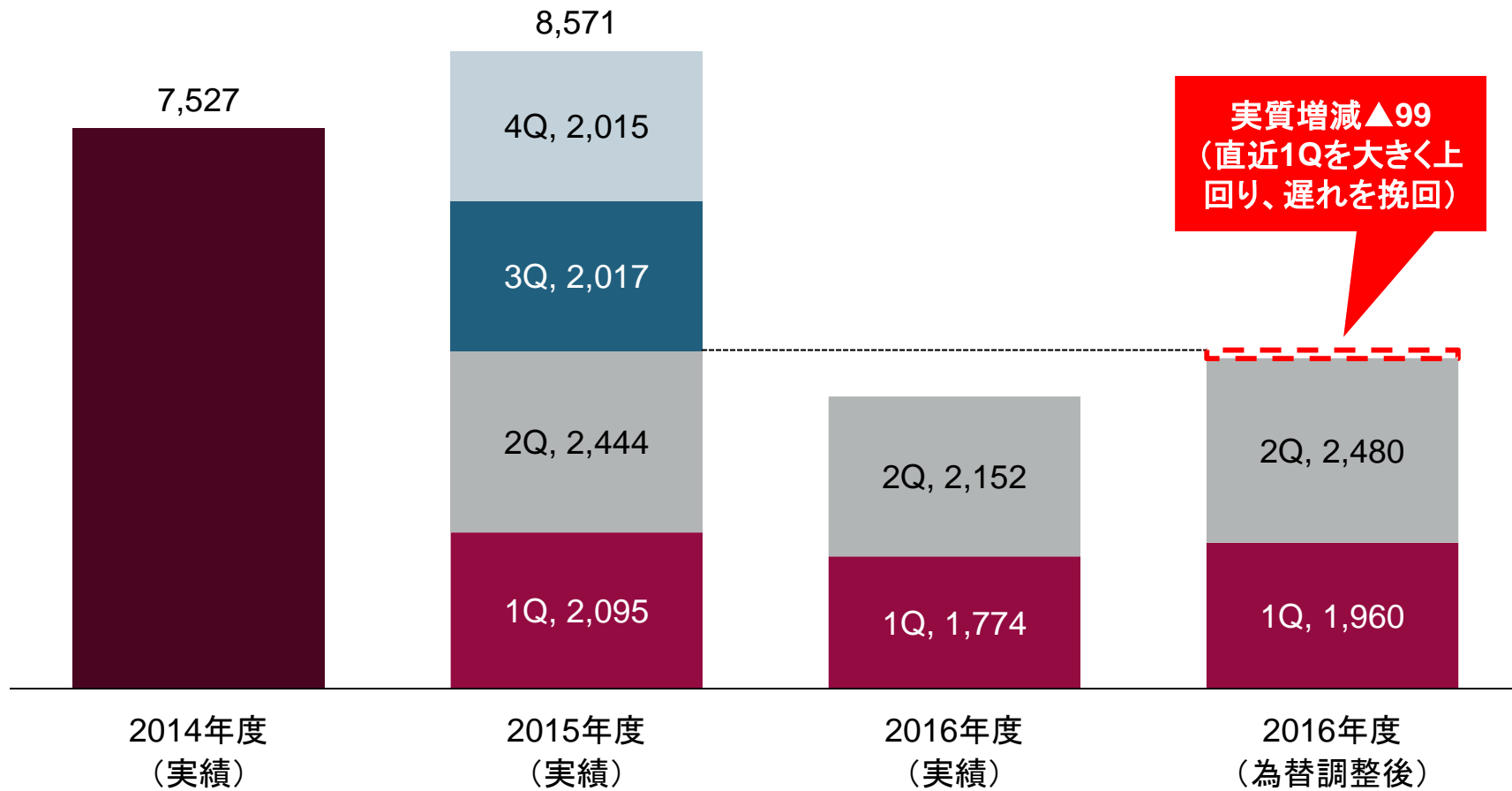
戦略的な取り組みの進捗

③アジア市場での成長



第2四半期は第1四半期を大きく上回り、第1四半期の遅れを挽回途上。新規需要を順調に獲得している

(百万円)

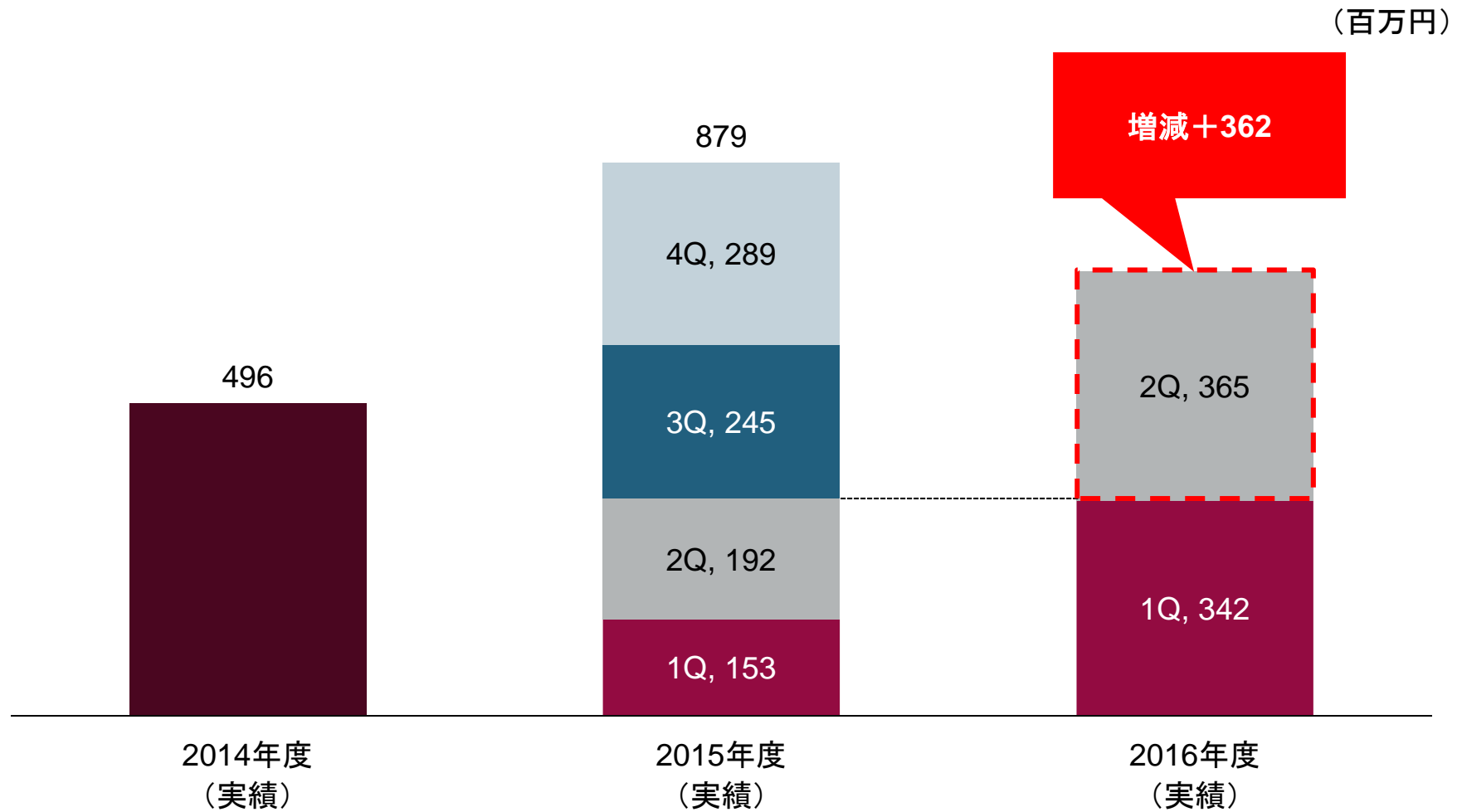


戦略的な取り組みの進捗

④新領域の開拓



新興国、特に中国でのインフラ(光通信網)投資に牽引される形で、引き続き高成長を維持している



(※1)国内販売の為、為替影響はありません。



3. 2016年12月期業績予想の修正及び配当方針

2016年12月期下期方針



外的要因に対する想定

自動車関連マクロは堅調に推移

工作機械関連マクロは回復が遅れている

年初に比較して円高トレンドは
当面継続
(下期為替前提:ドル=105円、
人民元=15.9円)

当社の取組方針

売上面

- 対前年実績はプラス想定
- 4つの戦略的取組の推進

コスト面

- コスト改善活動の継続

キャッシュ面

- BSマネジメント及びFCF創出力の強化
- 期末配当は年初見通しの33円を維持



2016年12月期下期業績予想について

(百万円)

対2016上期比較	2016年度上期 (実績)	下期業績予想 (見直し結果)	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	18,429	17,871	▲904	+346	+1.9%
営業利益	3,557	3,593	▲128	+164	+4.6%
営業利益率	19.3%	20.1%	—	—	—
EBITDA	4,372	4,398	▲165	+191	+4.4%
EBITDAマージン	23.7%	24.6%	—	—	—
税引前利益	2,659	3,471	+636	+176	+6.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,014	2,486	+341	+131	+6.5%
対2015下期比較	2015年度下期 (実績)	下期業績予想 (見直し結果)	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	19,038	17,871	▲2,273	+1,106	+5.8%
営業利益	3,203	3,593	▲304	+694	+21.7%
営業利益率	16.8%	20.1%	—	—	—
EBITDA	4,088	4,398	▲405	+715	+17.5%
EBITDAマージン	21.5%	24.6%	—	—	—
税引前利益	2,611	3,471	+189	+671	+25.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,601	2,486	+147	+738	+46.1%



2016年12月期通期業績予想について

(百万円)

対年初予想比較	通期業績予想 (年初)	通期業績予想 (見直し結果)	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	39,200	36,300	▲ 1,489	▲ 1,411	▲ 3.6%
営業利益	7,600	7,150	▲ 166	▲ 284	▲ 3.7%
営業利益率	19.4%	19.7%	—	—	—
EBITDA	9,300	8,770	▲ 231	▲ 299	▲ 3.2%
EBITDAマージン	23.7%	24.2%	—	—	—
税引前利益	6,900	6,130	▲ 484	▲ 286	▲ 4.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	5,000	4,500	▲ 335	▲ 165	▲ 3.3%
対2015年度比較	2015年度 (実績)	通期業績予想 (見直し結果)	為替影響	増減額 (除く為替影響)	増減比 (除く為替影響)
売上収益	39,178	36,300	▲ 3,407	+529	+1.4%
営業利益	7,110	7,150	▲ 444	+484	+6.8%
営業利益率	18.1%	19.7%	—	—	—
EBITDA	8,890	8,770	▲ 616	+496	+5.6%
EBITDAマージン	22.7%	24.2%	—	—	—
税引前利益	6,361	6,130	▲ 682	+451	+7.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	4,476	4,500	▲ 521	+545	+12.2%